

世田谷区・川場村 縁組協定40周年記念シンポジウム

川場村との交流と 自治体間連携の取り組み



世田谷区長 保坂展人

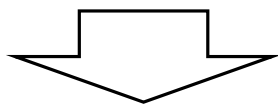
1 「第2のふるさと」づくり

・川場村との“縁組協定”の締結

◆「区民健康村事業」のスタート

自然の豊かさや田園風景を感じる事が求められる。

区外に世田谷区民の「第2のふるさと」をつくる。



1979年(昭和54年)

健康村づくり計画策定プロジェクトチームが始動。

関東7都県に静岡・長野・山梨・福島を加えた11都県に照会。

52市町村の推薦→18自治体のヒアリング実施→

10町村(9か所)の实地踏査→川場村に決定

1 「第2のふるさと」づくり



1 「第2のふるさと」づくり



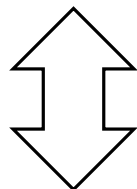
1 「第2のふるさと」づくり

・ 川場村との“縁組協定”の締結

◆ “縁組協定”の意味合い

【姉妹都市交流】

相互の共通点を基盤に交流を推進する。



【自治体同士の縁組】

規模や立地、歩んできた歴史や文化、置かれている状況など全く異なった自治体同士が、ともに歩んでいくということは、互いに育った環境が違った者同士が様々な困難や意見の違いを、互いに尊重し、相手のことを理解して乗り越えていくという、結婚して共に人生を歩むことに通じる。



1 「第2のふるさと」づくり

・ 区立小学校の移動教室

◆ 小学校5年生を対象にした2泊3日の移動教室

世田谷区民健康村(ふじやまビレジ・なかのビレジ)のオープンにより
区立小学校の移動教室がスタート。



登山・ハイキング



飯ごう炊さん

1 「第2のふるさと」づくり

- ・ 区立小学校の移動教室



- ・ 村巡り/村の方との交流

1 「第2のふるさと」づくり

- ・ 区立小学校の移動教室



- ・ 村巡り/村の方との交流

1 「第2のふるさと」づくり

- ・ 区立小学校の移動教室



- ・ 村巡り/村の方との交流

2 「友好の森」と様々な交流事業の展開

・ 10周年記念「友好の森」事業

◆「友好の森」

縁組協定10周年を記念して、なかのビレジの周辺の山林約80haを「友好の森」として区民・村民の交流事業における活動フィールドとして活用する。村民の指導により、植林を行い、下草刈り、枝落とし、間伐などを区民の手で行う。



2 「友好の森」と様々な交流事業の展開

- ・ 10周年記念「友好の森」事業



2 「友好の森」と様々な交流事業の展開

- ・ 10周年記念「友好の森」事業



2 「友好の森」と様々な交流事業の展開

- ・ 10周年記念「友好の森」事業

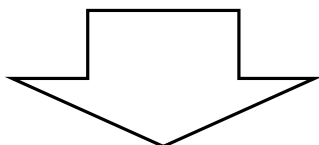


3 今後の川場村との交流に向けて

・ 交流事業の展開と今後の課題

◆ 広がる交流事業と課題

- ・ 長期滞在の利用が難しい。
- ・ 村の農業や生活を体験できる交流事業。
- ・ 新たな来村者の拡大。効果的な情報の発信。



◆ 今後の交流の深化、関係人口づくりに向けて

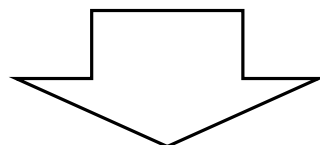
世田谷区民健康村第5期事業計画＜令和3年(2021年)度～令和12年(2030)度＞のスタート

4 世田谷区総合戦略

◆平成27年 世田谷区総合戦略の策定

国が策定した「まち・ひと・しごと創成長期ビジョン」(平成26年)

- ・全国で人口減少が加速度的に進む。
- ・人口減少は地方から始まり、都市部へ広がっていく。
- ・東京圏に過度に人口が集中していることが、日本全体の人口減少に結びついている。



「世田谷区が大都市の自治体として、全国の人口減少社会の克服という課題をどのように受け止め、どのような戦略を策定するのか。」

4 世田谷区総合戦略

◆世田谷区総合戦略の基本的な考え方

○人口ビジョン

- ▶世田谷区が人口減少社会と無関係であると認識することは適切でない
- ▶人口動向、年齢構成の推移によっては世田谷区を支える基盤が揺らぐ可能性がある

○「魅力あるまち世田谷」を創出するために必要なもの

＝総合戦略の基本目標

- ▶多くの世代の希望の実現
- ▶地域人材と社会資源を活用した活力ある地域社会の構築
- ▶心豊かな暮らしを実現するための地方・都市との連携・交流

5 世田谷区の自治体間連携の取り組み

・自治体間の連携の動き

◆隣接型の連携(広域連携)と遠隔型連携

隣接型の連携: モータリゼーションの発展による生活圏の拡大
平成の大合併

遠隔型の連携: 姉妹都市・友好都市の交流

◆阪神淡路大震災を契機とした災害時の連携

遠隔地の自治体との「災害時相互援助・協力協定」の締結

◆東日本大震災の影響と多様化する行政課題への対応

地球温暖化やエネルギー問題への対応

ネット社会の到来と情報化の進展

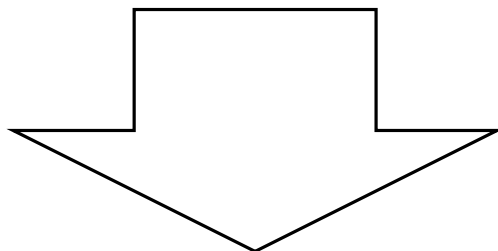
人口減少社会への対応

5 世田谷区の自治体間連携の取り組み

・自治体間連携フォーラムの開催

◆区民まつりの首長懇談会から自治体間連携フォーラムへ 「首長懇談会」

ふるさと物産展に出店する自治体の首長による情報交換



「自治体間連携フォーラム」

自然エネルギー利用の促進や、災害時の連携といった、単独の自治体では解決することが難しい課題や広域的な取り組みが必要な課題などに対する意見交換や協力・連携を進める場としてスタート。

5 世田谷区の自治体間連携の取り組み

・自治体間連携フォーラムの開催



平成27年第1回（世田谷区）



平成28年第2回（川場村）

5 世田谷区の自治体間連携の取り組み

・自治体間連携フォーラムの開催



平成29年第3回(長野県豊丘村) 平成30年第4回(新潟県十日町市)



令和元年第5回(山形県舟形町)

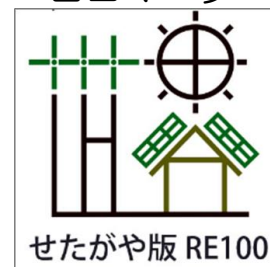
5 世田谷区の自治体間連携の取り組み

・ 自然エネルギーに関する連携

◆「せたがや版RE100」の取り組み

区民・事業者・区がそれぞれの立場で再生可能エネルギーを利用することで世田谷区全体の再生可能エネルギーの利用を進める取り組み

公募により決定した
ロゴマーク



- 公共施設に太陽光パネルを設置する！
- 再生可能エネルギー電力を使う！



- お家に太陽光パネルを設置する！
- 再生可能エネルギー電力を使う！

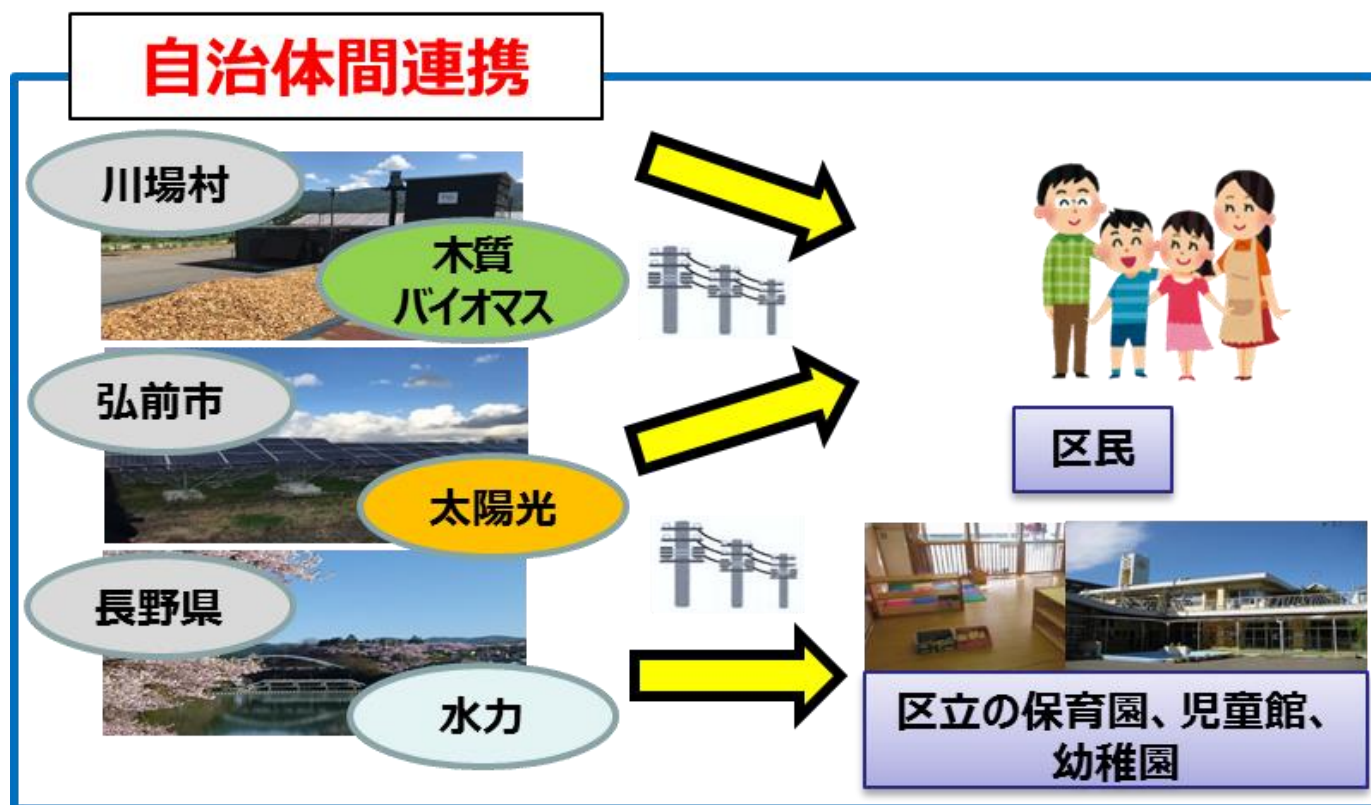


- 会社で太陽光パネルを設置する！
- 再生可能エネルギー電力を使う！

5 世田谷区の自治体間連携の取り組み

・ 自然エネルギーに関する連携

◆「せたがや版RE100」の取り組み



5 世田谷区の自治体間連携の取り組み

・ 自然エネルギーに関する連携

◆ 新たな自治体間連携に向けて

～環境省調査 平成28年度「低炭素・循環・自然共生」地域創生実現プラン策定事業～

■ 環境省

世田谷区と川場村との電力連携に関心を示し、当該調査の「都市・地方連携型」のモデル地域に、世田谷区を選定

⇒ 事例を紹介し、全国への展開を期待

● 都市・地方連携型事業パッケージ



◆ 令和3年8月19日 新潟県津南町との連携協定締結

5 世田谷区の自治体間連携の取り組み

・ 特別区全国連携プロジェクトによる

北海道胆振町村会との連携

◆北海道胆振町村会との連携の経緯

2016年(平成28年)度、全国連携プロジェクトの一環として特別区長会が北海道町村会と連携協定協定を締結し、世田谷区と胆振町村会の関係が生まれる。自治体間連携フォーラムにも参加。

※北海道胆振地方:安平町、厚真町、むかわ町
白老町、洞爺湖町、壮瞥町、
豊浦町



5 世田谷区の自治体間連携の取り組み

・ 特別区全国連携プロジェクトによる

北海道胆振町村会との連携

◆平成30年9月 北海道胆振東部地震

- ・ 被災地厚真(あつま)町への保健師派遣
(9月21日～10月26日 世田谷区を含む7区から派遣)
- ・ ふるさと納税代理寄附の受付、見舞い金支出等の対応



林地崩壊(厚真町)
(北海道:平成30年9月7日撮影)



避難所の状況2
(厚真町:平成30年9月20日撮影)

世田谷区・川場村 縁組協定40周年記念シンポジウム

川場村と交流と 自治体間連携の取り組み



ご清聴ありがとうございました。